

# 丸亀うちわ

Marugame Uchiwa



「伊予竹に土佐紙貼りてあわ（阿波）ぐれば讃岐うちわで至極（四国）涼しい」と歌い継がれる丸亀は、材料すべてを近隣で揃えられる恵まれた土地。また、全 47 もの製造工程のほとんどを頼る職人の手仕事は「丸亀うちわ」の要です。今では国内シェア 9 割に上る年間約 1 億本以上の生産量と、形の多様さともに日本一を誇り、平成 9 年には国の伝統的工芸品に指定されました。



丸亀うちわづくりには、大きく分けて「骨」と「貼り」の工程があります。一つ一つの工程に日本一の伝統を守る「丸亀うちわ」の職人芸が光ります。なんともいえぬ温もりは、気の遠くなるような手作業から生まれます。1 本のうちわができるまで、実に 47 に上る工程があります。



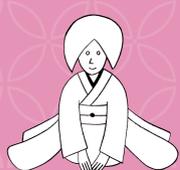
丸亀うちわは昔から、涼をとるだけでなく、料理を冷ます、炊事・起火、陽射しをよける、虫をはらう、飾りなど、様々な用途に使われてきました。そして、その用途に合わせた様々な形、図柄、種類が存在し、皆に親しまれてきました。

香川県丸亀うちわ協同組合連合会

詳しくはこちら

丸亀うちわギャラリー

詳しくはこちら



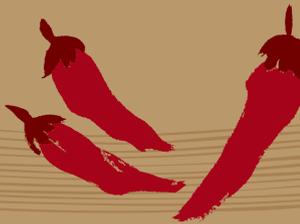
## 丸亀 おいり



嫁ぐ日、香川県（とくに西讃地域）では、嫁入り道具と一緒に必ず「おいり」をもたせるならわしがあります。おいりの由来は、今から 400 年以上も前のこと、丸亀初代藩主・生駒親正公の姫君のお興入れの折、お百姓の一人が五色の餅花を煎って作った「あられ」を献上したのが始まりとされ、「おいり」を持って他家にお嫁入りするときは、「その家の家族の一員として入り、心を丸くしてまめまめしく働きます」という意味が込められているとも言われます。以来、婚儀の折にはおめでたい煎りものとして広く一般に知られたり、この五色のお煎りものは略して「おいり」と呼ばれるようになりました。軽く、まあくて、愛らしい ひとつ口に入れた途端、ほんのり甘い幸せが広がります。

おいり関連商品

詳しくはこちら



丸亀沖に浮かぶ島々を中心に活躍した塩飽（しわく）水軍が、朝鮮出兵の際に豊臣秀吉から戦利品として拝領されたと伝えられる幻の唐辛子です。現在丸亀の生産農家はわずか一軒。塩飽諸島の手島（てしま）で大切に育てられています。

香川本鷹は昭和初期には塩飽諸島で盛んに栽培され、海外にも輸出されるほどでした。しかし安い輸入品におされて徐々に少なくなり、昭和 50 年代には途絶えていたと思われていました。ところがその香川本鷹の種がたまたま保存されていて、塩飽諸島で復活させようと復活プロジェクトが発足したのが平成 18 年。香川本鷹は 30 年以上のときを経て蘇った、まさに幻のトウガラシなのです。

香川本鷹生産者「手島香辛庵」

詳しくはこちら

香川本鷹関連商品

詳しくはこちら



### 丸亀ブランド 丸亀セレクション



丸亀市で製造、加工された物または生産された農林畜水産物で将来性及び市場性のあるものについて、「丸亀セレクション」として認定することにより、その商品の認知度を高め、販路拡大と地域産業の活性化につながるものです。

丸亀ブランド「丸亀セレクション」認定品一覧

詳しくはこちら

## 丸亀の SDGs な取り組み

### \*しおりうちわ

丸亀うちわ制作過程で出てくる端材(竹材・端切れ)を捨てずに活用し、可愛らしいしおりに仕上げました。



しおりうちわ

詳しくはこちら

### \*レモネード

中津万象園（香川県丸亀市）は江戸時代から続く、約 1500 本の松林が見どころの大名庭園です。

しかし、剪定後に出る大量の松葉や落ち葉などの処分を悩ませていました。そこで庭師の提案により、松葉をレモン畑で寒さを凌ぐグランドカバーとして活用しました。冬の厳寒を乗り越えたレモンは、ほどよい甘酸っぱさで『はつ恋キュンッれもん』として、新たなブランド化に成功しました。

そして、そのレモンをタンジールカフェ（丸亀市）がレモネードに加工し、3 社による SDGs な取り組みから新たなレモネードが誕生しました。



本取り組みの詳細はこちらから↓↓↓



中津万象園

詳しくはこちら

まるく農園

詳しくはこちら

タンジールカフェ

詳しくはこちら

### \*RINNE

『移り変わる海と再生』をコンセプトに、本来使われずに廃棄されてしまうような、3つの捨てられるものを自然界のサイクルしながらに、資源を再生し続けるブランドとして立ち上がりました。

香川県丸亀市の塩飽諸島のひとつである日本遺産に認定された石の島讃岐広島で採石される青木石を加工する際に残る石の粉末（廃石）、カレットと呼ばれる、各家庭から回収された不要になったガラス瓶を再生利用出来るように生まれ変わらせたガラス原料（廃ガラス）を混ぜ合わせ、ゴミを焼却する際に出る熱（廃熱）を電気エネルギーへと変換しガラスを溶かす炉の熱源にしています。



RINNE

詳しくはこちら